

令和 6 年度
沖縄県立芸術大学
卒業者アンケート調査報告書



卒業生アンケート調査報告書

1-1、本調査の目的

本調査は、沖縄県立芸術大学の卒業生が本学に対しどのような意見をもっているかを明らかにし、今後のキャリア支援の充実及び教育環境の向上へ活用することを目的としている。

1-2、調査期間

令和 7 年 1 月 16 日～2 月 16 日

1-3、調査対象

沖縄県立芸術大学卒業生

1-4、調査方法

- 1,インターネットを利用したアンケート
- 2,架電、SMS を利用したアンケート

1-5、回答数

238 名

1、目次と調査概要

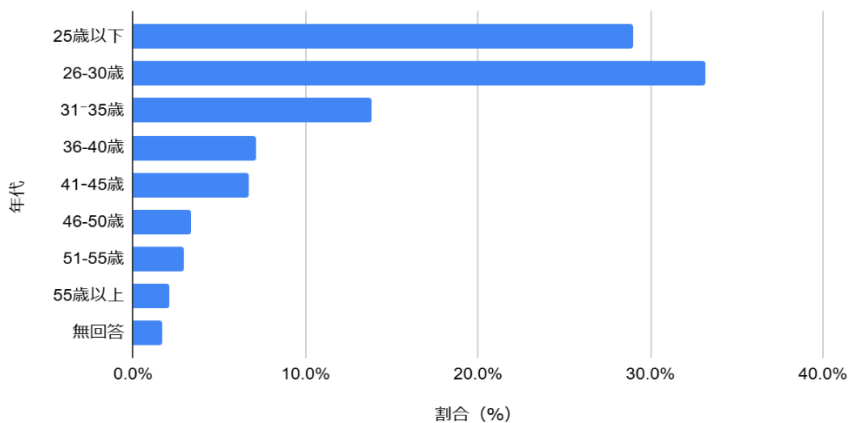
- | | |
|-----------------------------|-------|
| 2、回答者属性 | …P2～ |
| クロス集計による分析 | |
| 3、在学中の沖縄県立芸術大学の教育について | …P10～ |
| クロス集計による分析 | |
| 4、学校生活で感じたこと、身に付いたと思うことについて | …P16～ |
| クロス集計による分析 | |

2、 回答者属性

2-1、年齢

卒業者の年齢層を 8 つの年代に分け選択性にて回答。

年代割合



年代	割合(%)	回答数
25 歳以下	29.0%	69
26-30 歳	33.2%	79
31-35 歳	13.9%	33
36-40 歳	7.1%	17
41-45 歳	6.7%	16
46-50 歳	3.4%	8
51-55 歳	2.9%	7
55 歳以上	2.1%	5
無回答	1.7%	4
合計		238

回答の多い順に、26 歳～30 歳、25 歳以下、31 歳～35 歳となっている。(回答数 234)

2-2、卒業年度

卒業年度	割合(%)	回答数	卒業年度	割合(%)	回答数
令和 5	17.5%	41	平成 17	1.3%	3
令和 4	13.2%	31	平成 16	0.9%	2
令和 3	9.8%	23	平成 15	0.9%	2
令和 2	8.5%	20	平成 14	0.9%	2
令和 1	4.3%	10	平成 13	0.9%	2
平成 31	5.6%	13	平成 12	0.9%	2
平成 30	4.3%	10	平成 11	0.4%	1
平成 29	3.0%	7	平成 10	0.9%	2
平成 28	4.3%	10	平成 9	0.4%	1
平成 27	3.0%	7	平成 8	0.4%	1
平成 26	2.1%	5	平成 7	0.4%	1
平成 25	1.7%	4	平成 6	0.4%	1
平成 24	1.7%	4	平成 5	0.4%	1
平成 23	1.7%	4	平成 4	0.4%	1
平成 22	1.3%	3	平成 3	0.4%	1
平成 21	2.1%	5	平成 2	0.9%	2
平成 20	1.7%	4	平成 1	0.4%	1
平成 19	1.3%	3	昭和 63	0.4%	1
平成 18	1.3%	3	無回答	1.7%	4

卒業年度を選択式で回答。(回答数 234)

2-1 の集計で 20 代の回答が集中したことから比較的卒業年年度の近い対象者からの回答が多くなっている。

回答割合は

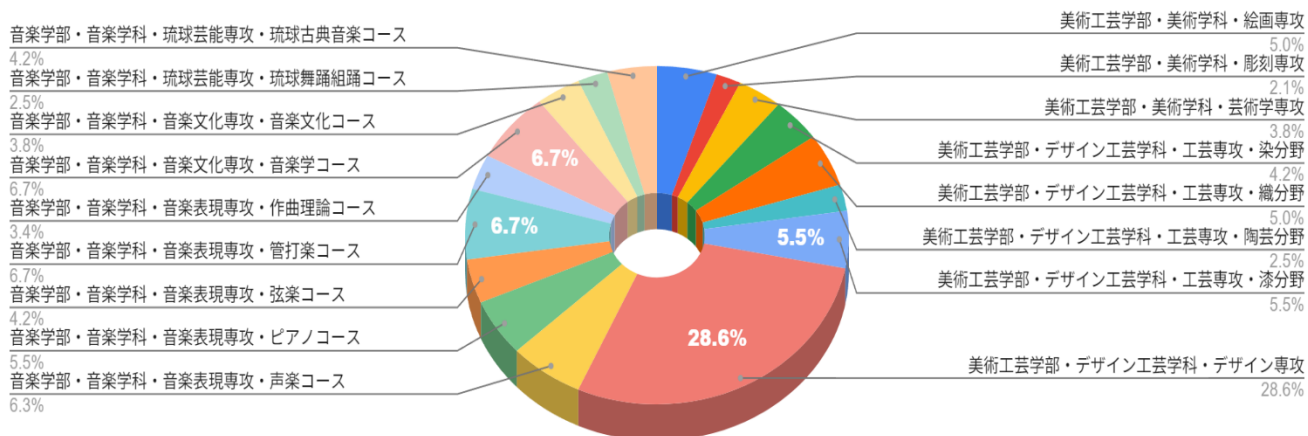
- ・令和 5 年度 17.5%(41 名)
- ・令和 4 年度 13.2%(31 名)
- ・令和 3 年度 9.8%(23 名)
- ・令和 2 年度 8.5%(20 名)

の順になっている。

2-3、在籍時の学部・学科・専攻

在学時に在籍していた学部・学科・専攻を選択回答。(回答数 238)

在学中の学部・学科・専攻



学部・学科・専攻	割合(%)	回答数
美術工芸学部・美術学科・絵画専攻	5.0%	12
美術工芸学部・美術学科・彫刻専攻	2.1%	5
美術工芸学部・美術学科・芸術学専攻	3.8%	9
美術工芸学部・デザイン工芸学科・工芸専攻・染分野	4.2%	10
美術工芸学部・デザイン工芸学科・工芸専攻・織分野	5.0%	12
美術工芸学部・デザイン工芸学科・工芸専攻・陶芸分野	2.5%	6
美術工芸学部・デザイン工芸学科・工芸専攻・漆分野	5.5%	13
美術工芸学部・デザイン工芸学科・デザイン専攻	28.6%	68
音楽学部・音楽学科・音楽表現専攻・声楽コース	6.3%	15
音楽学部・音楽学科・音楽表現専攻・ピアノコース	5.5%	13
音楽学部・音楽学科・音楽表現専攻・弦楽コース	4.2%	10
音楽学部・音楽学科・音楽表現専攻・管打楽コース	6.7%	16
音楽学部・音楽学科・音楽表現専攻・作曲理論コース	3.4%	8
音楽学部・音楽学科・音楽文化専攻・音楽学コース	6.7%	16
音楽学部・音楽学科・音楽文化専攻・音楽文化コース	3.8%	9
音楽学部・音楽学科・琉球芸能専攻・琉球舞踊組踊コース	2.5%	6
音楽学部・音楽学科・琉球芸能専攻・琉球古典音楽コース	4.2%	10

回答数はデザイン専攻が突出しており、以下は

音楽学部は

・管打楽器コース 16

・音楽学コース 16

・管打楽コース 15

の順になっている。

美術工芸学部は

・デザイン専攻 68

・工芸専攻 41

※(染 10、織 12、陶芸 6、漆 13)

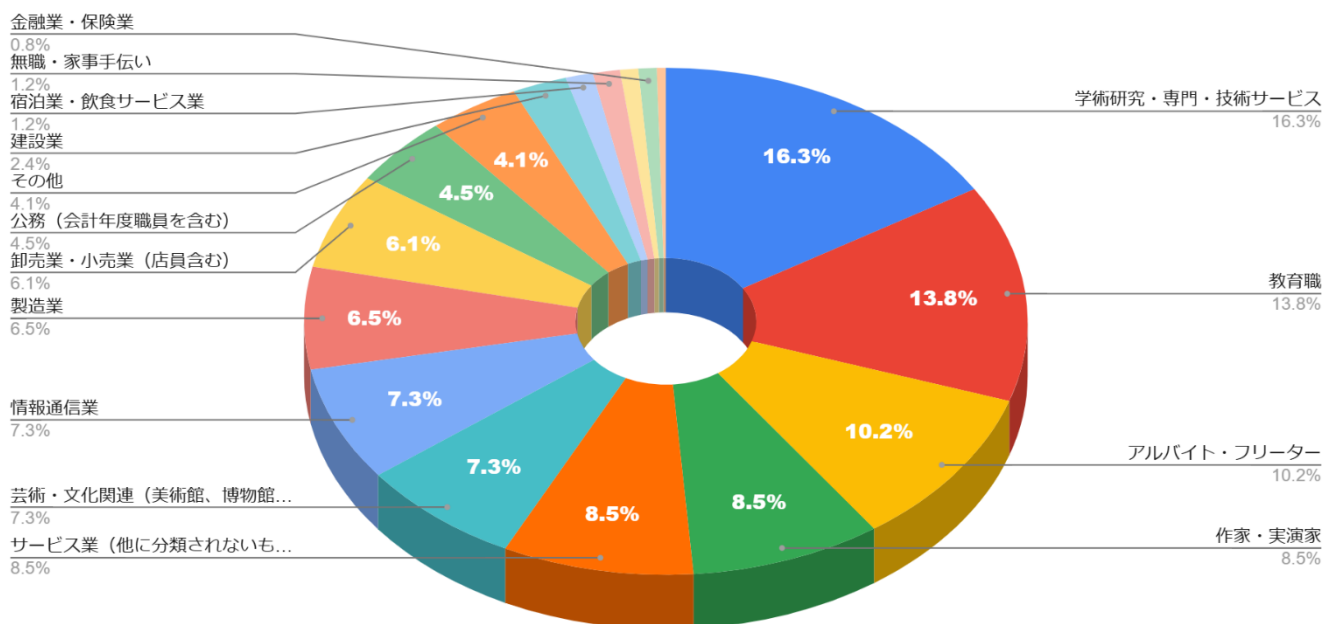
・絵画 12

の順になっている。

2-4、現在の職業

17 の項目から選択制、複数回答可。(回答数 246)

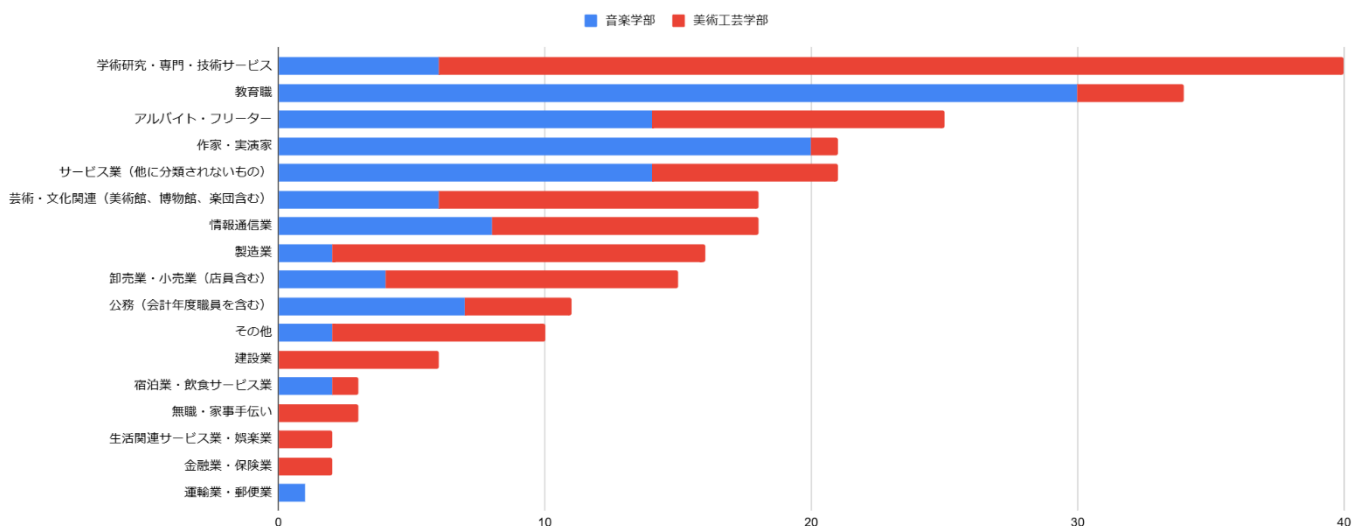
現在の職業



学術研究・専門・技術サービスの割合がもっとも高く。以下、教育職、アルバイト・フリーター、作家・実演家、サービス業、芸術・文化関連の選択が多くなっている。

2-4-1、クロス集計◆職業×学部

現在の職業（複数回答可）



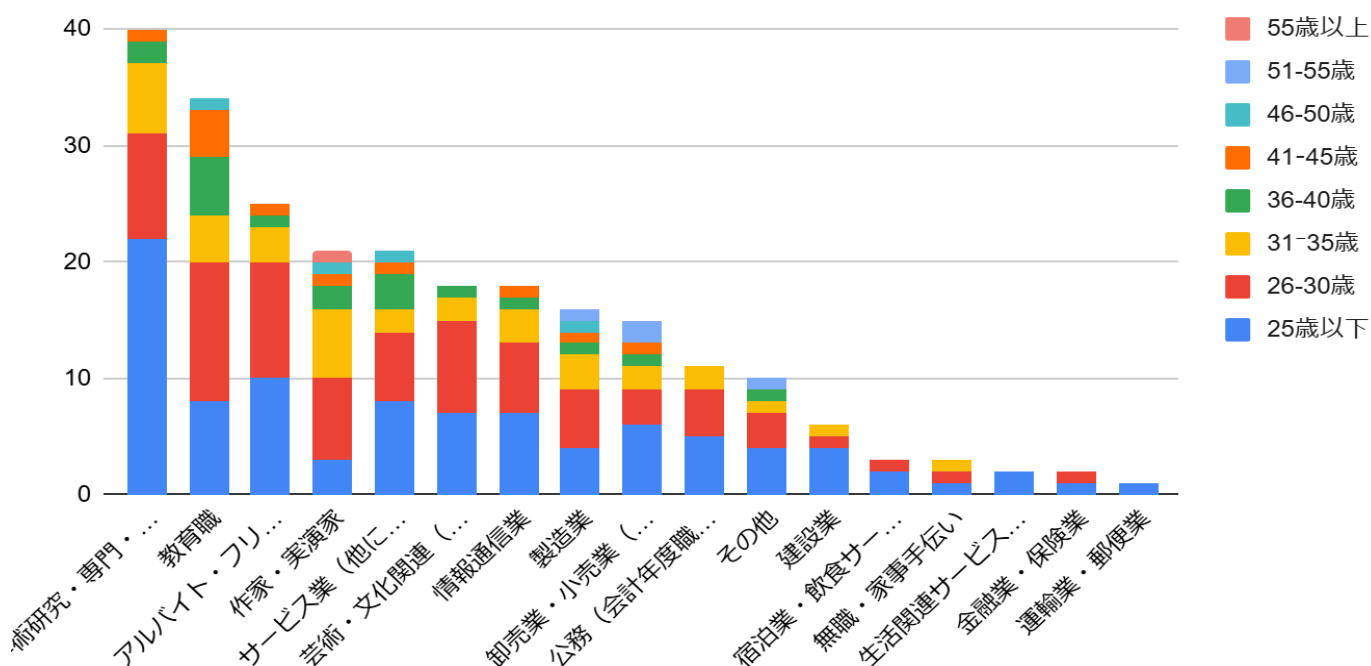
学部ごとに見ると美術工芸学部は学術研究・専門・技術サービス(34 名)に従事している割合が高く、続いて、製造業(14 名)、芸術・文化関連(12 名)となっており、音楽学部は教育職(30 名)、作家・実演家(20 名)、サービス業とアルバイト・フリーター(14 名)となっている。

学部によって職業の分布に大きな偏りがあることが分かる。

2-4-2、クロス集計◆年齢属性×現在の職業

全年齢層の中で最も多いのが 25 歳以下の学術研究・専門・技術サービスとなっており、続いて

26 歳～30 歳の教育職の割合が高くなっている。属性分布が広いのは作家・実演家と製造業である。

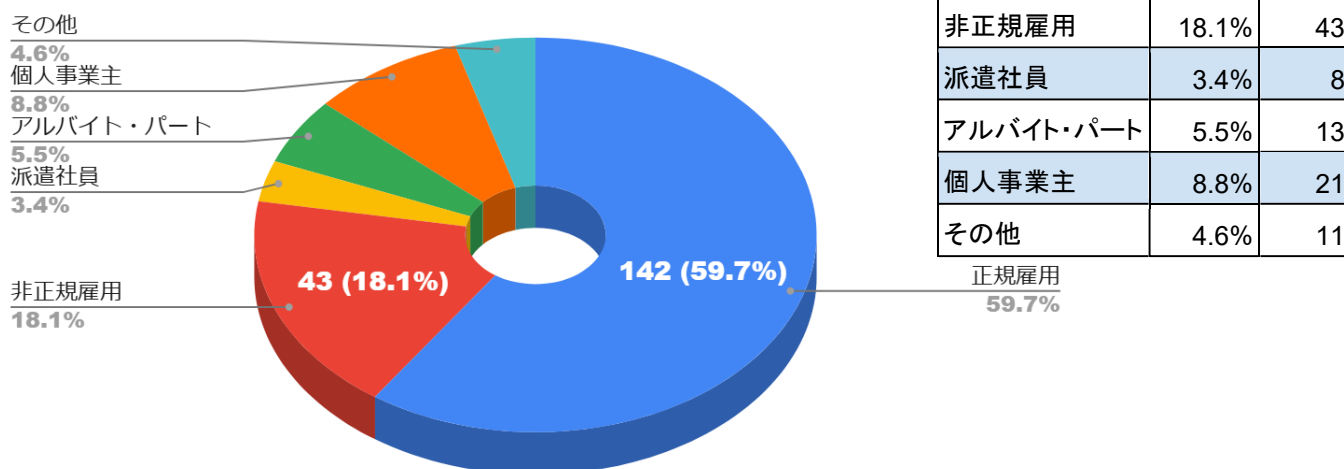


現在の職業	25 歳以下	26-30 歳	31-35 歳	36-40 歳	41-45 歳	46-50 歳	51-55 歳	55 歳以上
学術研究・専門・技術サービス	8.94%	3.66%	2.44%	0.81%	0.41%			
教育職	3.25%	4.88%	1.63%	2.03%	1.63%	0.41%		
アルバイト・フリーター	4.07%	4.07%	1.22%	0.41%	0.41%			
作家・実演家	1.22%	2.85%	2.44%	0.81%	0.41%	0.41%		0.41%
サービス業（他に分類されないもの）	3.25%	2.44%	0.81%	1.22%	0.41%	0.41%		
芸術・文化関連（美術館、博物館、楽団含む）	2.85%	3.25%	0.81%	0.41%				
情報通信業	2.85%	2.44%	1.22%	0.41%	0.41%	0.00%		
製造業	1.63%	2.03%	1.22%	0.41%	0.41%	0.41%	0.41%	
卸売業・小売業（店員含む）	2.44%	1.22%	0.81%	0.41%	0.41%		0.81%	
公務（会計年度職員を含む）	2.03%	1.63%	0.81%				0.00%	
その他	1.63%	1.22%	0.41%	0.41%			0.41%	
建設業	1.63%	0.41%	0.41%					
宿泊業・飲食サービス業	0.81%	0.41%						
無職・家事手伝い	0.41%	0.41%	0.41%					
生活関連サービス業・娯楽業	0.81%	0.00%						
金融業・保険業	0.41%	0.41%						
運輸業・郵便業	0.41%							

2-5、現在の雇用形態

正規雇用の割合が最も高くなっている(59.7%)。(回答数 238 名)

現在の雇用形態



また、2-4 で触れた作家・実演家の割合(8.5%)と

個人事業主の割合(8.5%)は非常に近い値を示していることから

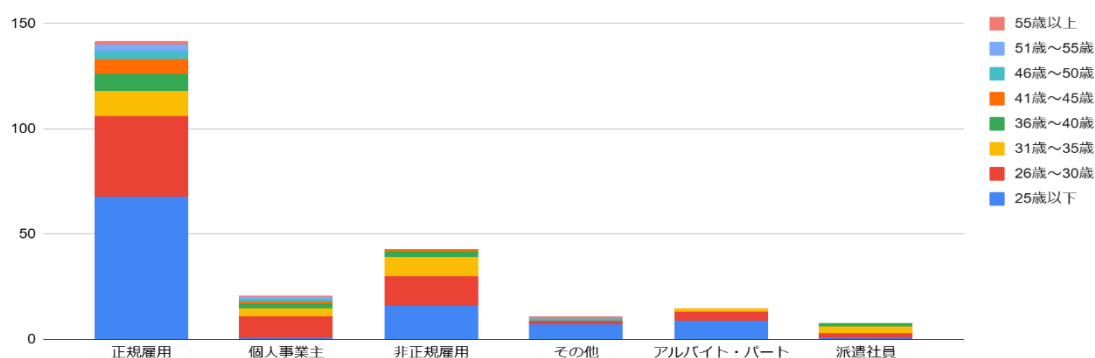
関連性が高いことが推測される。

2-5-1、クロス集計◆年齢属性×現在の雇用形態

25 歳以下の正規雇用の割合が最も高く、続いて 26 歳～30 歳の正規雇用と続いている。

正規雇用の割合は年代を経るごとに低くなる傾向が確認できる。

年齢属性×現在の雇用形態



	25 歳以下	26-30 歳	31-35 歳	36-40 歳	41-45 歳	46-50 歳	51-55 歳	55 歳以上
正規雇用	28.6%	16.0%	5.0%	3.4%	2.9%	1.7%	1.3%	0.8%
個人事業主	0.4%	4.2%	1.7%	0.8%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
非正規雇用	6.7%	5.9%	3.8%	1.3%	0.4%			
その他	2.9%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%		0.4%
アルバイト・パート	3.8%	1.7%	0.8%					
派遣社員	0.4%	0.8%	1.3%	0.8%				

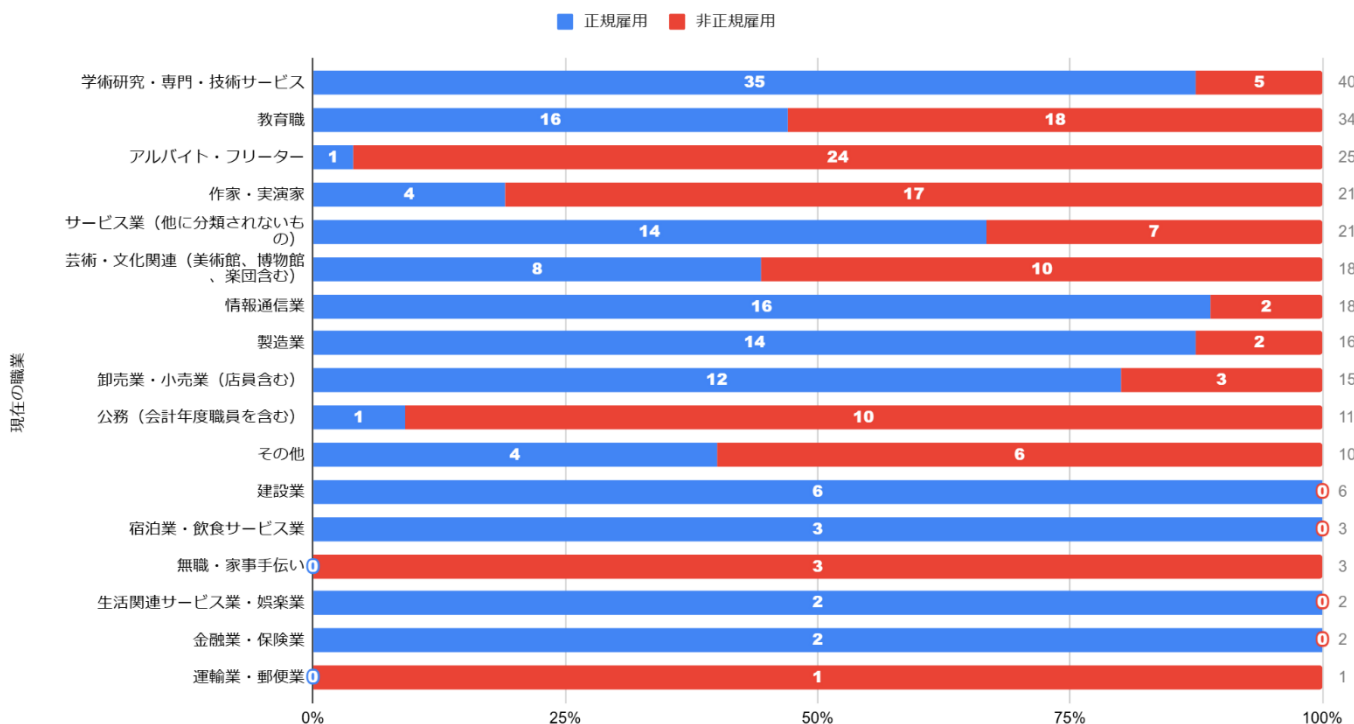
2-5-2、クロス集計◆現在の職業×現在の雇用形態

正規雇用の数が最も多いのは学術研究・専門・技術サービス(35 名)で続いて

教育職と情報通信業(16 名)であった。正規雇用の割合が高い職業(80%以上)は

情報通信業 88.9%、学術研究・専門・技術サービス 87.5%、製造業 87.5%、卸売業・小売業 80%
となっている。

職業と雇用形態



正規雇用の割合低くなっている

職業で人数が多いのは

・アルバイト・フリーター 24 名(4%)

・教育職 18 名(47.1%)

・芸術・文化関連 10 名(44.4%)

・公務 10 名(9.1%)

となっており、いずれも正規雇用の割合が

50%を割っている状態である。

この結果は、副業や転職回数等とも

関連があるものと推測される。

現在の職業	正規雇用	非正規雇用	正規雇用率(%)
学術研究・専門・技術サービス	35	5	87.5%
教育職	16	18	47.1%
アルバイト・フリーター	1	24	4.0%
作家・実演家	4	17	19.0%
サービス業（他に分類されないもの）	14	7	66.7%
芸術・文化関連（美術館、博物館、楽団含む）	8	10	44.4%
情報通信業	16	2	88.9%
製造業	14	2	87.5%
卸売業・小売業（店員含む）	12	3	80.0%
公務（会計年度職員を含む）	1	10	9.1%
その他	4	6	40.0%
建設業	6	0	100.0%
宿泊業・飲食サービス業	3	0	100.0%
無職・家事手伝い	0	3	0.0%
生活関連サービス業・娯楽業	2	0	100.0%
金融業・保険業	2	0	100.0%
運輸業・郵便業	0	1	0.0%

2-6、副業について

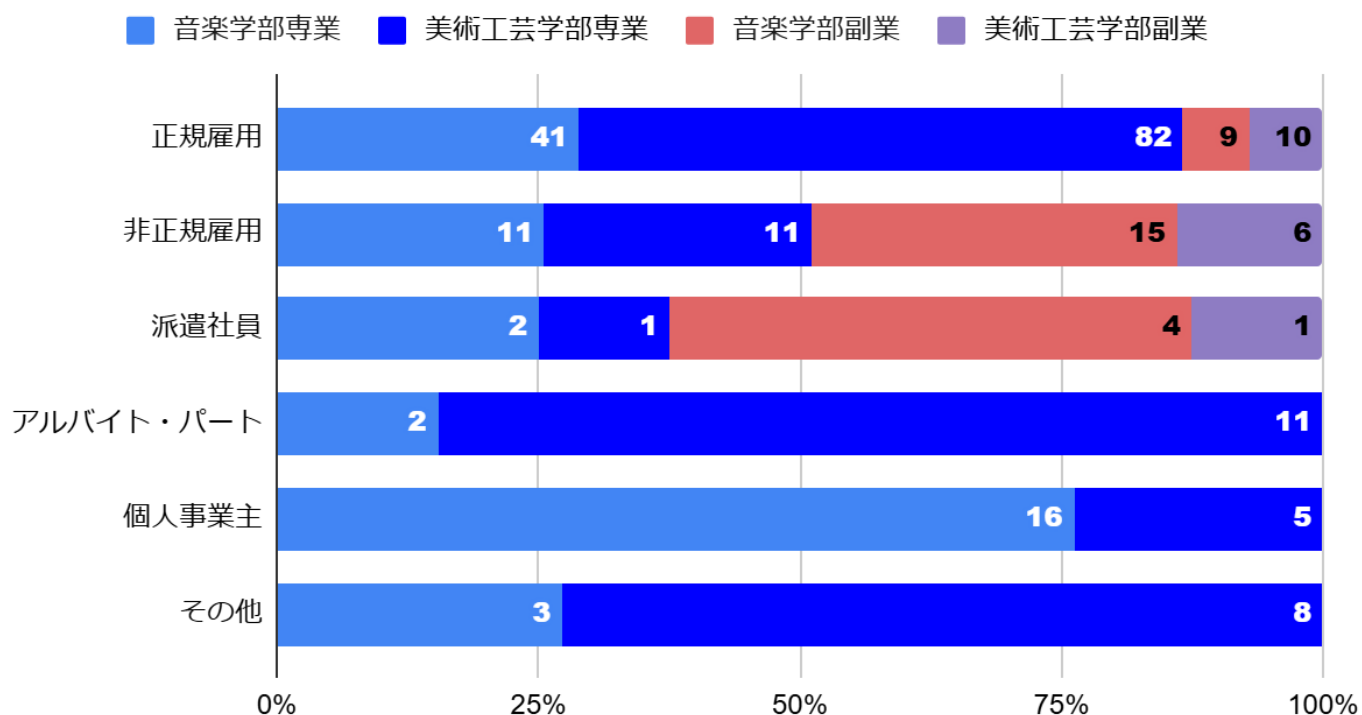
副業をしていますか？という問いに対して、副業をしている

割合は回答数の約 2 割であった。

副業をしていますか？	割合(%)	回答数
副業をしている	20.2%	48
副業はしていない	84.5%	201

2-6-1、雇用形態×副業

雇用形態×副業従事の割合



副業に従事している割合は、派遣社員が最も高くなっている。続いて非正規の割合が高くなっている。

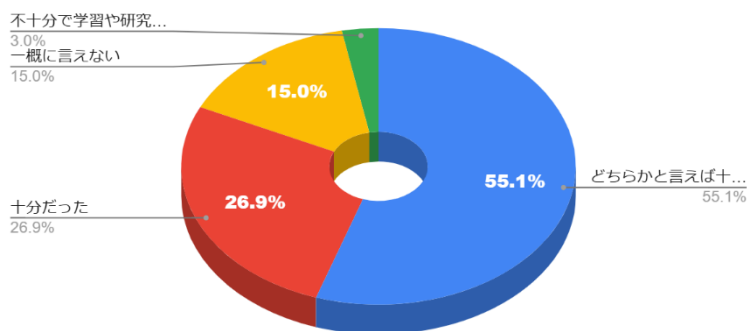
3、在学中の沖縄県立芸術大学の教育について(5 段階評価)

3-1、学習や研究に関わる施設、設備は十分でしたか？

「十分だった」「どちらかといえば十分だった」「一概に言えない」「不十分で学習や研究がやりにくかった」

「不十分で学習や研究ができなかった」の 5 項目からの選択制。(回答数 234)

学習や研究に関わる施設、設備は十分でしたか？



「どちらかといえば十分だった」55.1%

「十分だった」26.9%となっており、

全体の約 8 割が好意的に回答している。

「不十分で学習や研究ができなかった」という回答は 0 であった。

項目	回答数 (合計)	音楽学部	美術工芸学部
どちらかといえば十分だった	129	63	66
十分だった	63	17	46
一概に言えない	35	16	19
不十分で学習や研究がやりにくかった	7	4	3

学部ごとで見ても、「どちらかといえば十分だった」が最も多く、ついで「十分だった」が多くなっている。

音楽学部

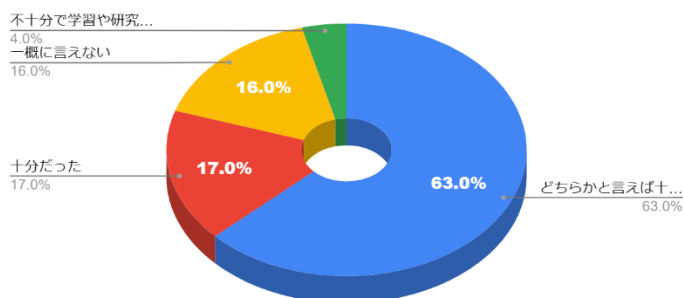
「どちらかといえば十分だった」63%

「十分だった」17%

「一概に言えない」16%

「不十分で学習や研究がやりにくかった」4%

音楽学部



美術工芸学部

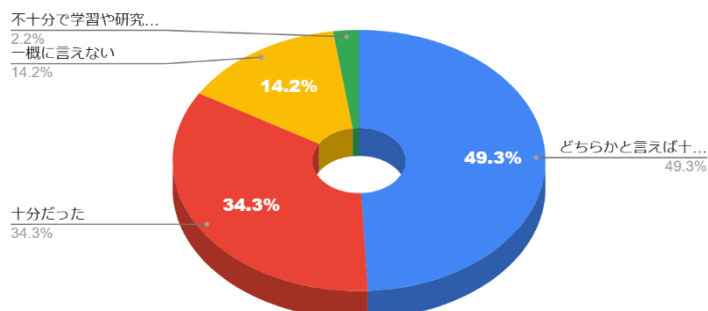
「どちらかといえば十分だった」49.3%

「十分だった」34.3%

「一概に言えない」14.2%

「不十分で学習や研究がやりにくかった」2.2%

美術工芸学部



不十分で学習や研究がやりにくかったことを教えてください。(自由記述)(回答数 18)

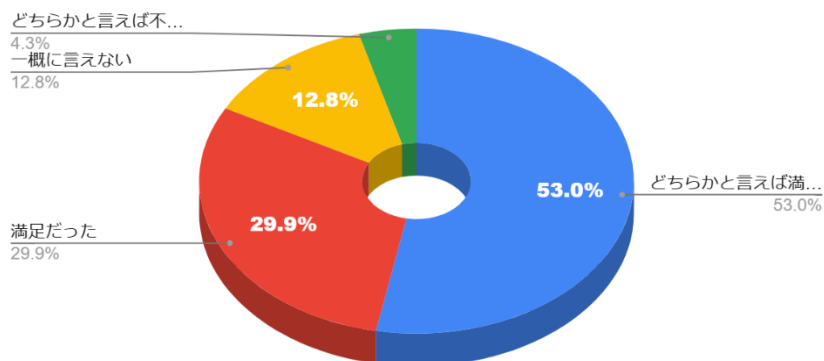
音楽学部 (回答数 9)	・私たちの学年からは声楽コースはオペラ公演をすることがなくなり、学習の機会が大幅に減った。 ・ピアノの練習室が不十分で、思うように練習ができないことがあった。※複数意見 ・卒業論文を書くにあたっての蔵書数が少し少ないこと、パソコンが古くて重かった ・県外にしかないものを調べるため費用がかさんだ
美術工芸学部 (回答数 9)	・(学んだことが)専門に特化しすぎていた。もう少しテキスタイル全般やデザインについて学びたかった ・設備が十分に整っていない 専門の道具がない、専門的な制作に対し教員に知識がなく自力で研究を行うことが多々あった ・木工機械が古く、欲しいサイズに製材できなかった。 ・教員の指導レベルにばらつきがある。3D プリンターなどプロダクト設備が少ない。 ・IT(SNS、Adobe、他デジタルソフト)に関しての専門的内容がなかった

3-2、教育内容に満足でしたか？

「満足だった」「どちらかといえば満足だった」「一概に言えない」「どちらかといえば不満足だった」

「不満足だった」の 5 項目からの選択制。（回答数 234）

教育内容に満足でしたか？



「どちらかといえば満足だった」53%

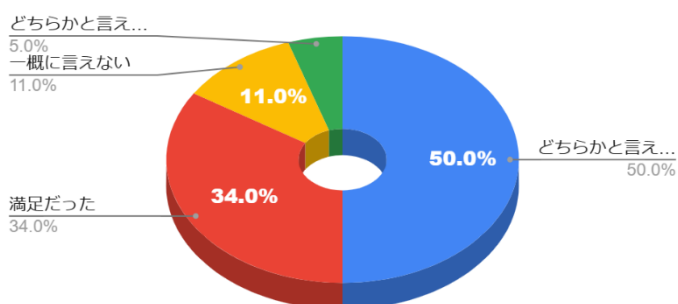
「満足だった」29.9%となっており、
約 8 割以上が好意的な回答になっている。

「不満足だった」

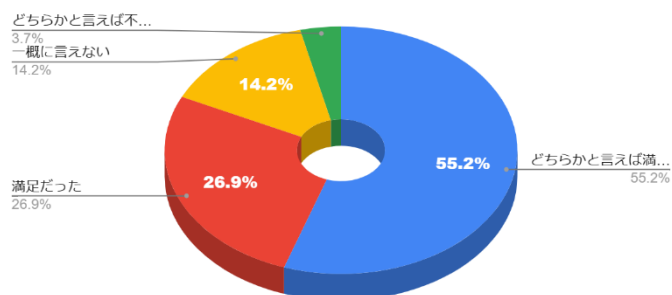
という回答は 0 であった。

項目	回答数(合計)	音 楽 学 部	美術工芸学部
どちらかといえば満足だった	124	50	74
満足だった	70	34	36
一概に言えない	30	11	19
どちらかといえば不満足だった	10	5	5

音楽学部

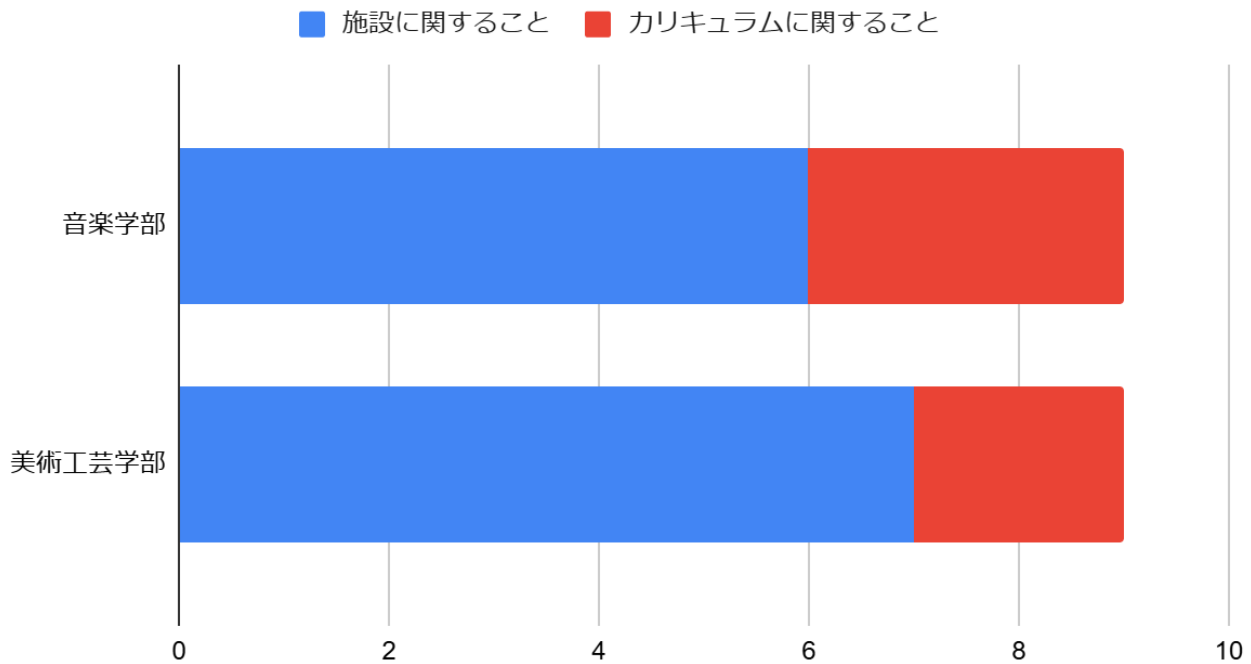


美術工芸学部



項目ごとの回答割合についても、学部ごとで大きな差は確認できませんでした。

不十分で学習や研究がやりにくかったことを教えてください



不十分で学習や研究がやりにくかったことについては、施設に関することの割合が高くなっている。

質問の回答とは異なるが、カリキュラムに関する意見もあった。

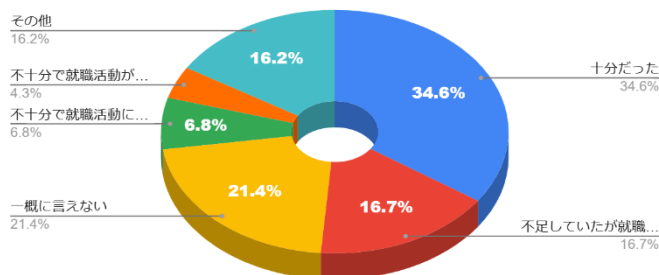
音楽学部では、練習室が不十分だったという意見が最も多く、

美術工芸学部では、工具や道具が不十分だという意見が最も多かった。

3-3、就職活動の支援は十分でしたか？

「十分だった」「不足していたが就職活動に問題はなかった」「一概に言えない」「不十分で就職活動に苦労した」「不十分で就職活動ができなかった」「その他」の 6 項目からの選択制。(回答数 234)

就職活動の支援は十分でしたか？



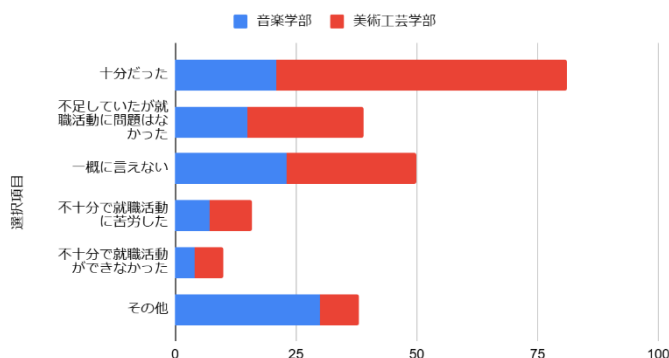
選択項目	割合 (%)	回答数
十分だった	34.6%	81
不足していたが就職活動に問題はなかった	16.7%	39
一概に言えない	21.4%	50
不十分で就職活動に苦労した	6.8%	16
不十分で就職活動ができなかった	4.3%	10
その他	16.2%	38

「十分だった」「不足していたが就職活動に問題はなかった」の回答が約半数を占めた。

今回設問として設定した「その他」の回答の割合も 16.2%と高い割合となっている。

3-3-1、クロス集計 ◆満足度×学部

選択項目	音楽学部	美術工芸学部
十分だった	21	60
不足していたが就職活動に問題はなかった	15	24
一概に言えない	23	27
不十分で就職活動に苦労した	7	9
不十分で就職活動ができなかった	4	6
その他	30	8

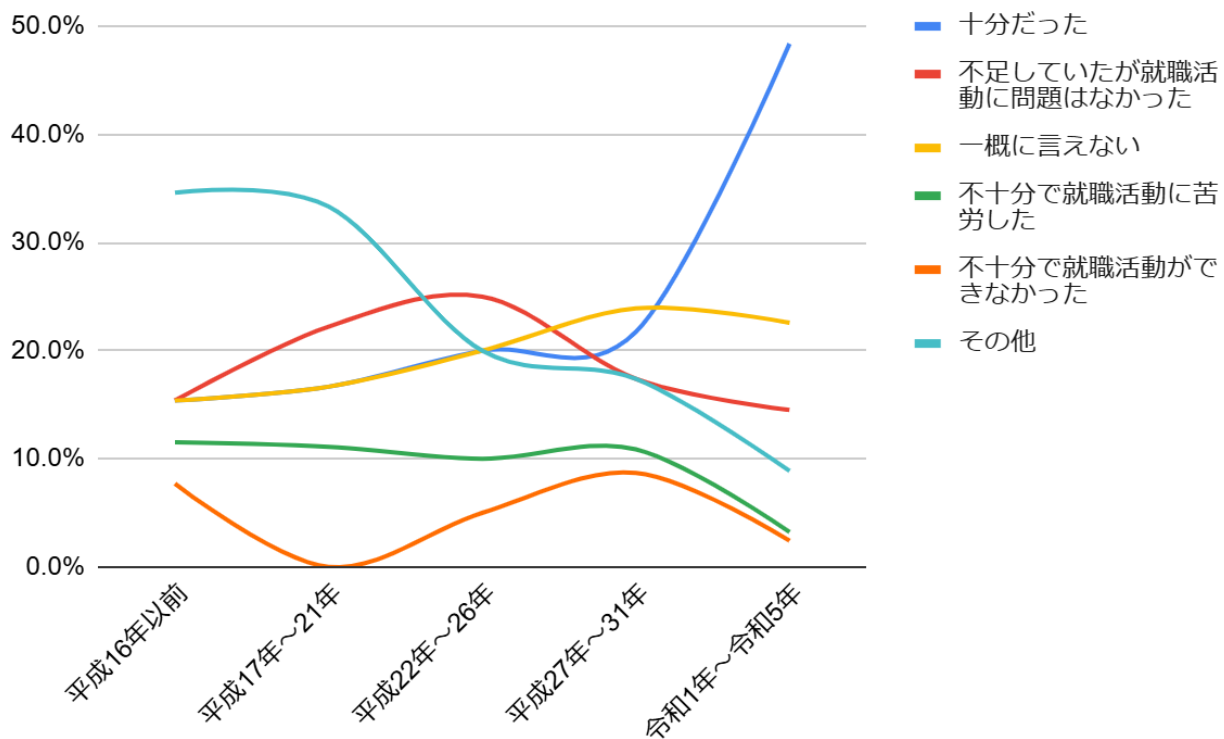


就職活動の支援が「十分だった」「不足していたが就職活動に問題はなかった」と回答したのは

音楽学部よりも、美術工芸学部の方が多く、その他と回答するのは音楽学部が多い。

3-3-2、クロス集計 ◆満足度×年代

選択項目	平成 16 年以前	平成 17 年～21 年	平成 22 年～26 年	平成 27 年～31 年	令和 1 年～令和 5 年
十分だった	15.4%	16.7%	20.0%	21.7%	48.4%
不足していたが就職活動に問題はなかった	15.4%	22.2%	25.0%	17.4%	14.5%
一概に言えない	15.4%	16.7%	20.0%	23.9%	22.6%
不十分で就職活動に苦労した	11.5%	11.1%	10.0%	10.9%	3.2%
不十分で就職活動ができなかった	7.7%	0.0%	5.0%	8.7%	2.4%
その他	34.6%	33.3%	20.0%	17.4%	8.9%



年代ごとに見ると、令和 1 年から令和 5 年に卒業した年代が就職活動の支援に対する満足度が高いことがわかった。「不足していたが就職活動に問題はなかった」は横ばい傾向で、「その他」の回答は低下傾向であることが確認できた。

3-3-3、就職活動の支援が不足、不十分と感じた点を教えてください。

「情報」「人員体制に関すること」「支援体制に関すること」「その他」の 4 項目から選択。(回答数 98)

選択項目	回答数
情報(量が足りない/欲しいものが無い)	43
人員体制に関すること(必要な人数がいない)	12
支援体制に関すること(必要なノウハウや指導がない)	29
その他	14

不足、不十分と感じているものは「情報」が最も割合が高く、「支援体制に関すること」が続いている。

「不足していたが就職活動に問題はなかった」(39 名)、「不十分で就職活動に苦労した」(16 名)

「不十分で就職活動ができなかった」(10 名)の合計よりも回答数が多い。

音楽学部 (回答数 48)	・沖縄県内という点では優れているかもしれないが県外の情報が少なかった。 ・周りが就職活動をする雰囲気になかったので、そのまま流されて卒業した感じです ・周りも誰も就職活動をしていない感じです ※多数 ・先輩や卒業生の進路情報が入ってこない ※多数 ・自身が就活をしていないため ※ ・就活等は行わなかった ※多数
美術工芸学部 (回答数 48)	・他の美術大学では基本的に行われているポートフォリオの作り方についての講義が沖芸にもあったらと思う ・ポートフォリオの作り方やデザインをきちんと指導してくれる人がいなかった ・先輩の進路情報がない(参考になる進路情報が欲しかった) ・就職活動の開始が遅く、希望する職種では就職できなかった ・自身の就活開始が遅かった。危機感が足りなかった ・そもそも就活をしていない ・同じ専攻の先輩の進路情報

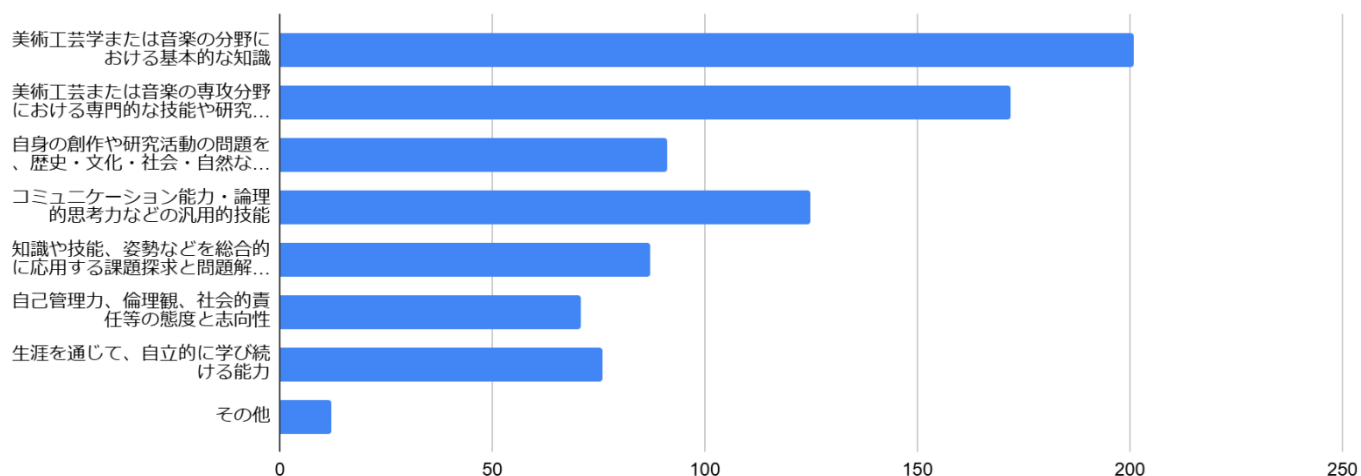
自由記載にでは、音楽学部では「就職活動を行わなかった」という回答が多く、美術工芸学部では就職活動で使用するポートフォリオの作成法に関する情報や卒業生の進路に関する情報を求める傾向が高くなっている。

4、学生生活で感じたこと、身についてと思うことについて

4-1、大学で身についたと思うものご選択ください。（複数回答可）

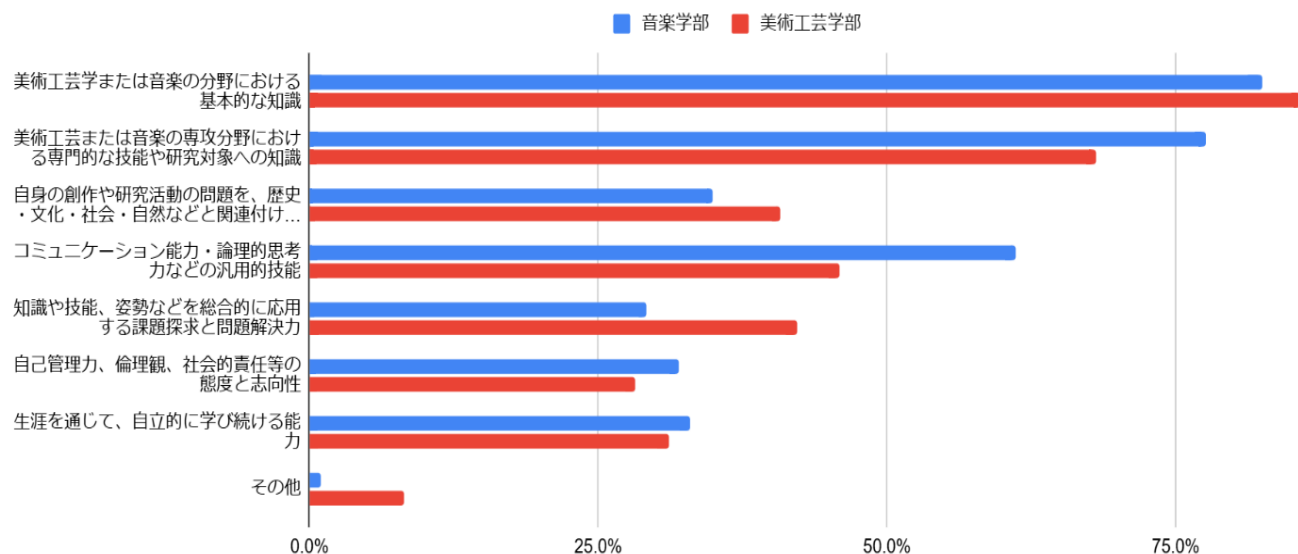
「美術工芸学または音楽の分野における基本的な知識」「美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識」「自身の創作や研究活動の問題を、歴史・文化・社会・自然などと関連付けて考える能力」「コミュニケーション能力・論理的思考力などの汎用的技能」「知識や技能、姿勢などを総合的に応用する課題探求と問題解決力」「自己管理能力、倫理観、社会的責任等の態度と志向性」「生涯を通じて、自立的に学び続ける能力」「その他」の7項目からの選択制。（複数回答可）（回答数 835）

大学で身についたと思うものをご選択ください（複数回答可）



選択項目	割合(%)	回答数
美術工芸学または音楽の分野における基本的な知識	24.1%	201
美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識	20.6%	172
自身の創作や研究活動の問題を、歴史・文化・社会・自然などと関連付けて考える能力	10.9%	91
コミュニケーション能力・論理的思考力などの汎用的技能	15.0%	125
知識や技能、姿勢などを総合的に応用する課題探求と問題解決力	10.4%	87
自己管理能力、倫理観、社会的責任等の態度と志向性	8.5%	71
生涯を通じて、自立的に学び続ける能力	9.1%	76
その他	1.4%	12

4-1-1、クロス集計 ◆身についてと思うこと×学部

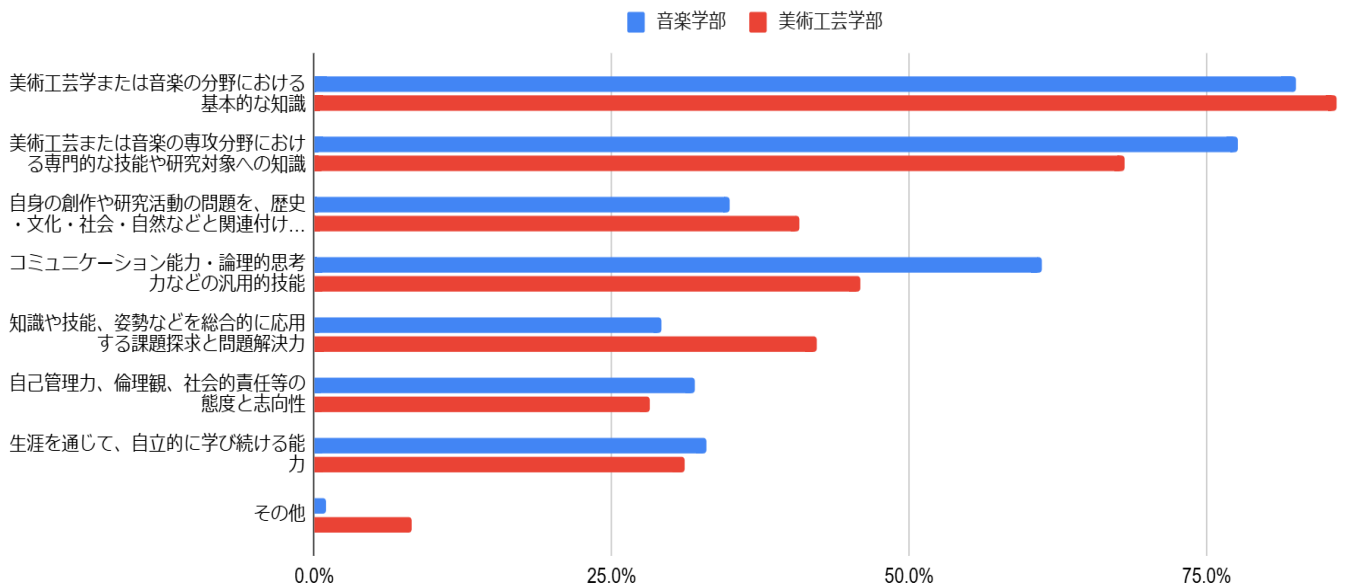


選択項目	音楽学部	回答数	美術工芸学部	回答数
美術工芸学または音楽の分野における基本的な知識	82.5%	85	85.9%	116
美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識	77.7%	80	68.1%	92
自身の創作や研究活動の問題を、歴史・文化・社会・自然などと関連付けて考える能力	35.0%	36	40.7%	55
コミュニケーション能力・論理的思考力などの汎用的技能	61.2%	63	45.9%	62
知識や技能、姿勢などを総合的に応用する課題探求と問題解決力	29.1%	30	42.2%	57
自己管理能力、倫理観、社会的責任等の態度と志向性	32.0%	33	28.1%	38
生涯を通じて、自立的に学び続ける能力	33.0%	34	31.1%	42
その他	1.0%	1	8.1%	11

「美術工芸学または音楽の分野における基本的な知識」の回答割合が最も高くなっています。

「自身の創作や研究活動の問題を、歴史・文化・社会・自然などと関連付けて考える能力」と「知識や技能、姿勢などを総合的に応用する課題探求と問題解決力」の回答については、音楽学部と美術工芸学部で10%以上の差異があります。

4-4-2、クロス集計 ◆R6 年度×R2 年度



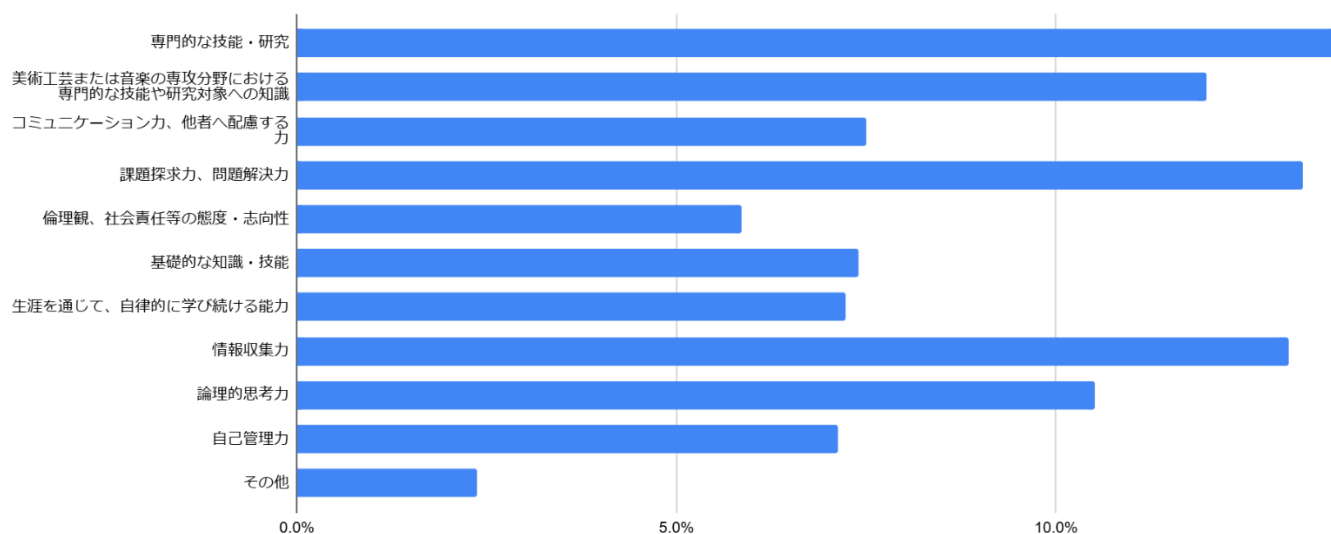
選択項目	令和6年度 (%)	令和2年度 (%)
美術工芸学または音楽の分野における基本的な知識	24.1	24.5
美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識	20.6	19.8
自身の創作や研究活動の問題を、歴史・文化・社会・自然などと関連付けて考える能力	10.9	11.1
コミュニケーション能力・論理的思考力などの汎用的技能	15	7.6
知識や技能、姿勢などを総合的に応用する課題探求と問題解決力	10.4	13.8
自己管理能力、倫理観、社会的責任等の態度と志向性	8.5	8.4
生涯を通じて、自立的に学び続ける能力	9.1	13.4

ほとんどの項目で前回との差異は見られなかったが、「コミュニケーション能力・論理的思考力などの汎用的技能」については、前回 7.6%から 15%と差異が生じています。

4-2、今後、どのような力を育成する教育の充実が望ましいと思いますか？（複数回答可）

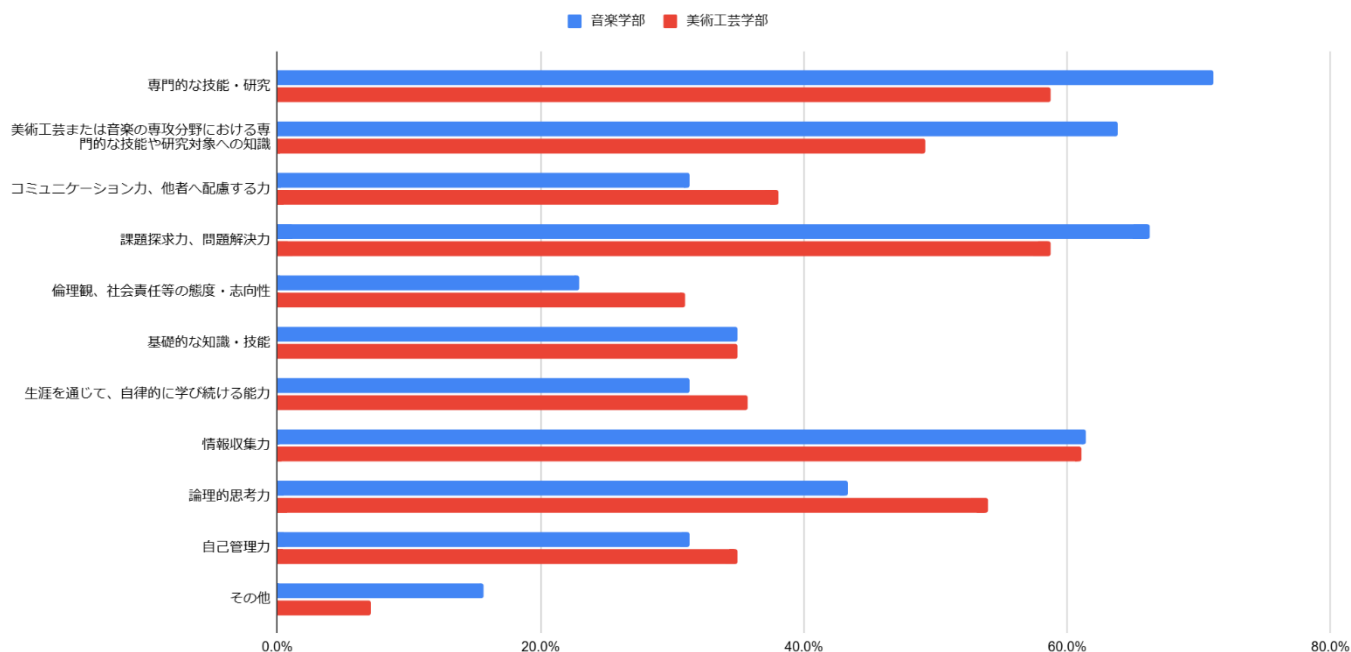
「専門的な技能・研究」「美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識」「コミュニケーション力、他者へ配慮する力」「課題探求力、問題解決力」「倫理観、社会責任等の態度・志向性」「基礎的な知識・技能」「生涯を通じて、自律的に学び続ける能力」「情報収集力」「論理的思考力」「自己管理能力」「その他」の 11 項目からの選択制。（複数回答可）（回答数 1094）

今後、どのような力を育成する教育が望ましいと思いますか？



選択項目	割合 (%)	回答数
専門的な技能・研究	13.7%	150
美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識	12.0%	131
コミュニケーション力、他者へ配慮する力	7.5%	82
課題探求力、問題解決力	13.3%	145
倫理観、社会責任等の態度・志向性	5.9%	64
基礎的な知識・技能	7.4%	81
生涯を通じて、自律的に学び続ける能力	7.2%	79
情報収集力	13.1%	143
論理的思考力	10.5%	115
自己管理能力	7.1%	78
その他	2.4%	26

4-2-1、クロス集計 ◆回答×学部



選択項目	音 楽 学 部	美術工芸学部
専門的な技能・研究	71.1%	58.7%
美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識	63.9%	49.2%
コミュニケーション力、他者へ配慮する力	31.3%	38.1%
課題探求力、問題解決力	66.3%	58.7%
倫理観、社会責任等の態度・志向性	22.9%	31.0%
基礎的な知識・技能	34.9%	34.9%
生涯を通じて、自律的に学び続ける能力	31.3%	35.7%
情報収集力	61.4%	61.1%
論理的思考力	43.4%	54.0%
自己管理能力	31.3%	34.9%
その他	15.7%	7.1%

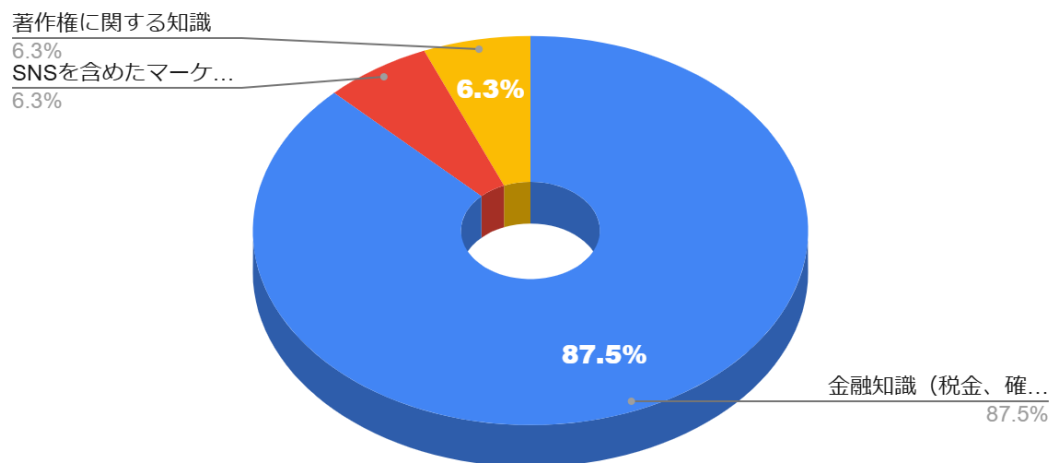
「専門的な技能・研究」「美術工芸または音楽の専攻分野における専門的な技能や研究対象への知識」「論理的思考力」の回答で音楽学部と美術工芸学部で10%以上の差異が生じている。

4-2-2、クロス集計 ◆学部×職業×今後求める力

音楽学部(回答数 16)

「その他」を選択した音楽学部の卒業生の 8 割以上が「金融知識」を身につける必要性を感じています。

作家・演奏家や演奏活動等の副業を行う割合が高いことが影響していると考えられます。



職業の内訳

回答項目	作家・実演家	教 育 職	公 務	アルバイト
金融知識(税金、確定申告、資産運用)	7	5	1	1
SNSを含めたマーケティングに関する知識	1	0	0	0
著作権に関する知識	1	0	0	0

「その他」選択した中で最も多い職業が「作家・実演家」で続いて「教育職」の割合突出しています。

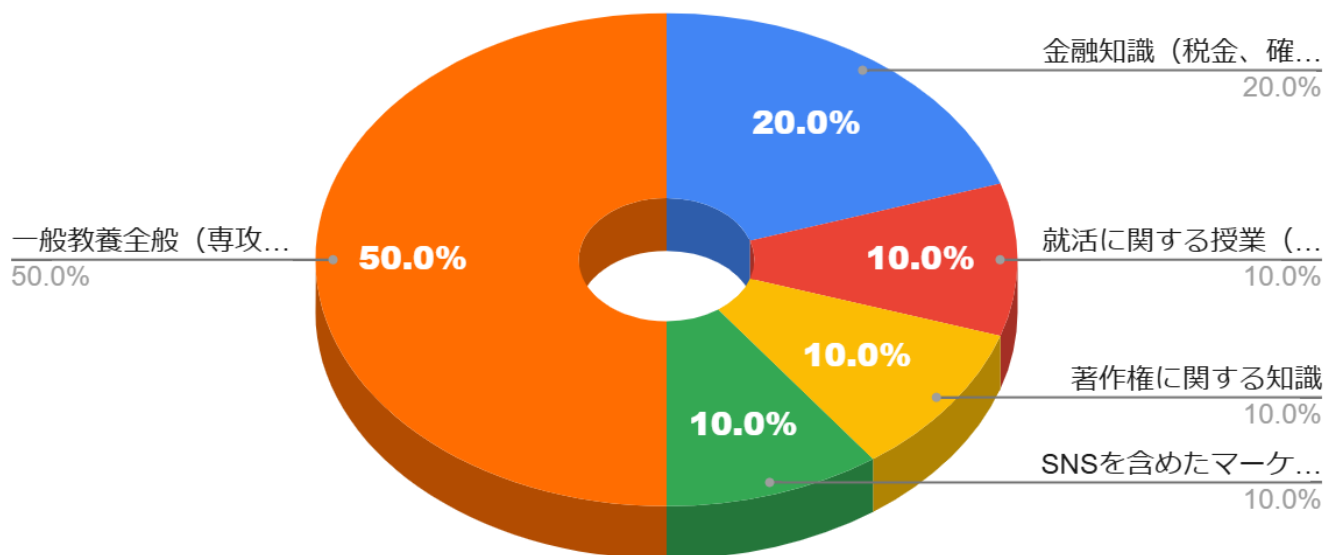
フリーランスや副業の割合が高いことから、金融知識に関する知識は実践的なものも含めて、必要性が感じられます。

抽出コメント

- ・税金に関することは知っていた方がいいと感じた
- ・昨年から作家活動をしているが、確定申告が想像以上に煩雑でつらい
- ・資産形成や社会保障制度はもう少し詳しく学んでおけば良かった
- ・源泉徴収票なるものの存在を最近知った。
- ・3 万円以上の領収書に収入印紙を添付することを知らず、相手方に注意された

美術工芸学部(回答数 10)

「その他」を選択した美術工芸学部の卒業生の中で必要性を感じているもので最も割合が高かったのは「一般教養全般」となっています。一般教養の内訳として多かったのが、専攻分野以外の知識や技術の習得の必要性を感じる人がもっとも多くなっています。



職業の内訳

回答項目	卸売業・小売業	作家・実演家	サービス + 副業	金融・ 保険業	製造業	公 務	学研究・専門・ 技術サービス
金融知識(税金、確定申告、資産運用)			1		1		
就活に関する授業(ポートフォリオ、OB,OG 訪問、業界研究)	1						
著作権に関する知識		1					
SNSを含めたマーケティングに関する知識		1					
一般教養全般(専攻以外の分野)				1		1	3

その他を選択した中で、「学研究・専門技術サービス業」のが最も多くなっています。この 5 年間で同職での就職者が増えている状況から、今後も同じ要望が卒業生から出てくとも見込まれます。就職者の割合が高いことから OB 訪問等就職活動に関する要望もありました。

抽出コメント

- ・専攻以外に服飾の技術が少しでも学べたらアパレル業界とかに行けたかなと思う ※工芸/染分野
- ・会社の会議で、一般的な時事を知らず恥ずかしい思いを何度かしているから。
- ・専攻以外の知識やスキルの必要性を最近痛感する。web プログラミングとか。
- ・マーケティングの知識はあった方が良く。起業を考えているため。

令和 6 年度
沖縄県立芸術大学
卒業生の就職先アンケート
調査報告書

株式会社ツクリエ
令和 7 年 3 月

卒業生の就職先アンケート調査報告書

1-1、本調査の目的

本調査は、沖縄県立芸術大学卒業生の就職先が本学に対しどのような意見をもっているかを明らかにし、今後のキャリア支援の充実及び教育環境の向上へ活用することを目的としている。

1-2、調査期間

令和7年1月16日～2月16日

1-3、調査対象

沖縄県立芸術大学卒業者

1-4、調査方法

インターネットを利用したアンケート

1-5、回答数

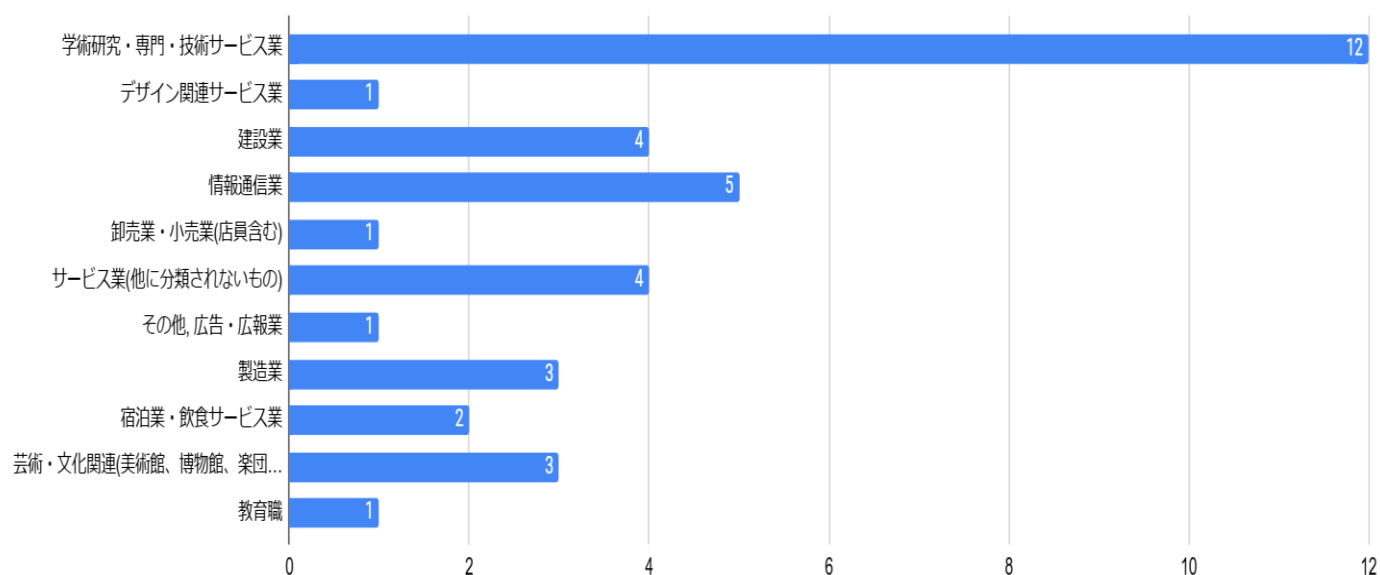
37社

1、目次と調査概要	・・・P24
2、卒業者の採用状況	・・・P25～
3、企業の採用活動について	・・・P27～
4、回答企業一覧	・・・P31

2、卒業生の採用状況

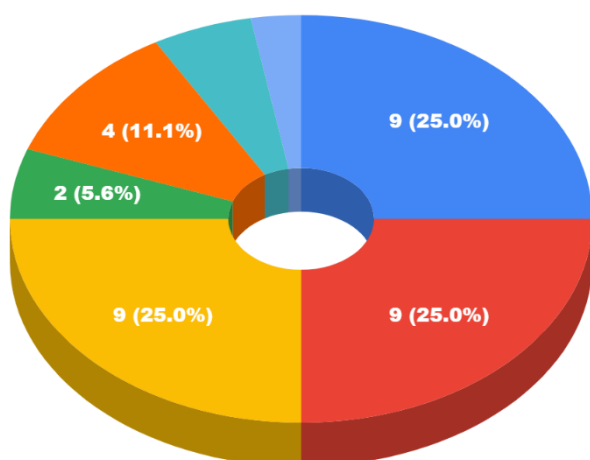
2-1、業種

「学術研究・専門・技術サービス」12 社、「デザイン関連サービス」1 社、「建設業」4 社、「情報通信業」5 社、「卸売業・小売業」1 社、「サービス業」4 社、「その他、広告・広報業」1 社、「製造業」3 社、「宿泊業・飲食サービス業」2 社、「芸術・文化関連」3 社、「教育職」1 社からの回答があった。(回答数 37)



2-2、沖縄県立芸術大学卒業生の採用数

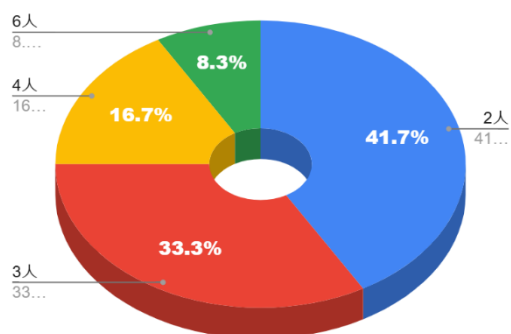
1 名採用と 2 名採用が 9 社と最も多く、最も採用人数が多い企業は 9 名採用となっている。



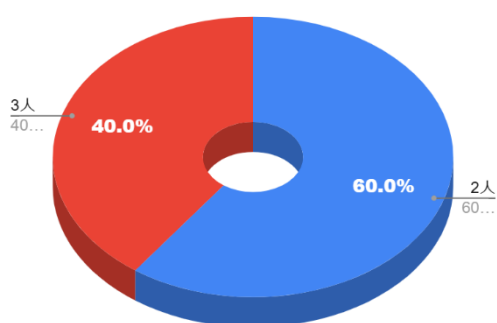
後述するが、ここ数年ウェブ広告を制作する「情報通信業」企業への就職が増えていることが反映された結果となっている。

2-2、クロス集計 ◆業種×採用数

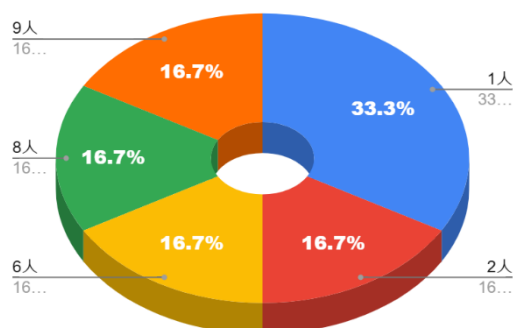
学術研究・専門・技術サービス業



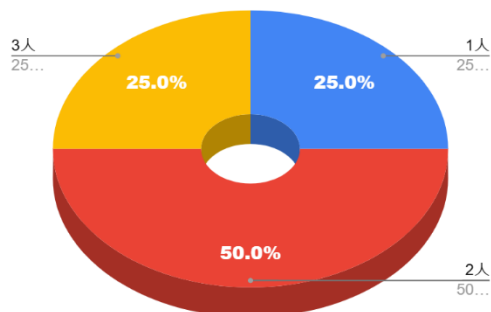
建設業



情報通信業

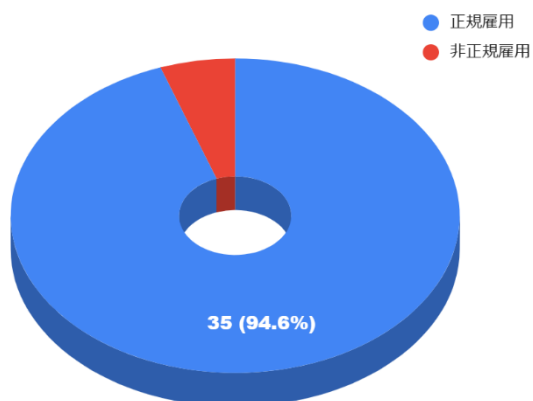


サービス業



採用人数の多い上位 4 業種。「学術研究・専門技術サービス業」「情報通信業」「建設業」「サービス業」の順となっている。

2-3、沖縄県立芸術大学卒業者の雇用形態



「正規雇用(常勤)」「非正規雇用(非常勤)」

「派遣社員」「アルバイト・パート」の 4 項目からの選択制。

※複数回答可(回答数 37)

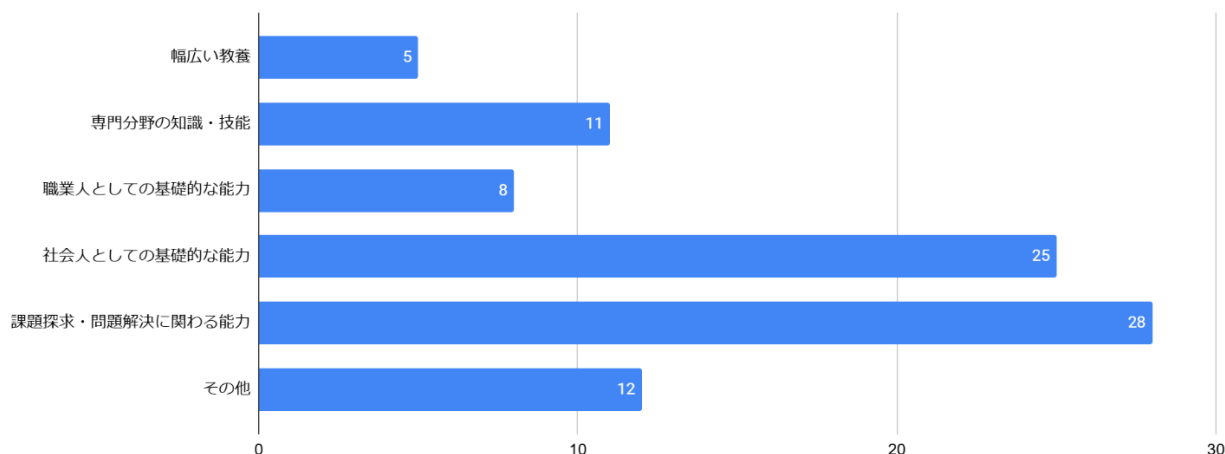
回答した 37 社中 35 社が正規雇用としており、非正規雇用は 2 社のみで、2 社とも「芸術文化関連」であった。

3、企業の採用活動について

3-1、採用に当たって、どのような点を重視しますか？（複数回答可）

「幅広い教養」「専門分野の知識・技能」「職業人としての基礎的な能力」「社会人としての基礎的な能力」「課題探求・問題解決に関わる能力」「課題探求・問題解決に関わる能力」「その他」の 6 項目の選択制。

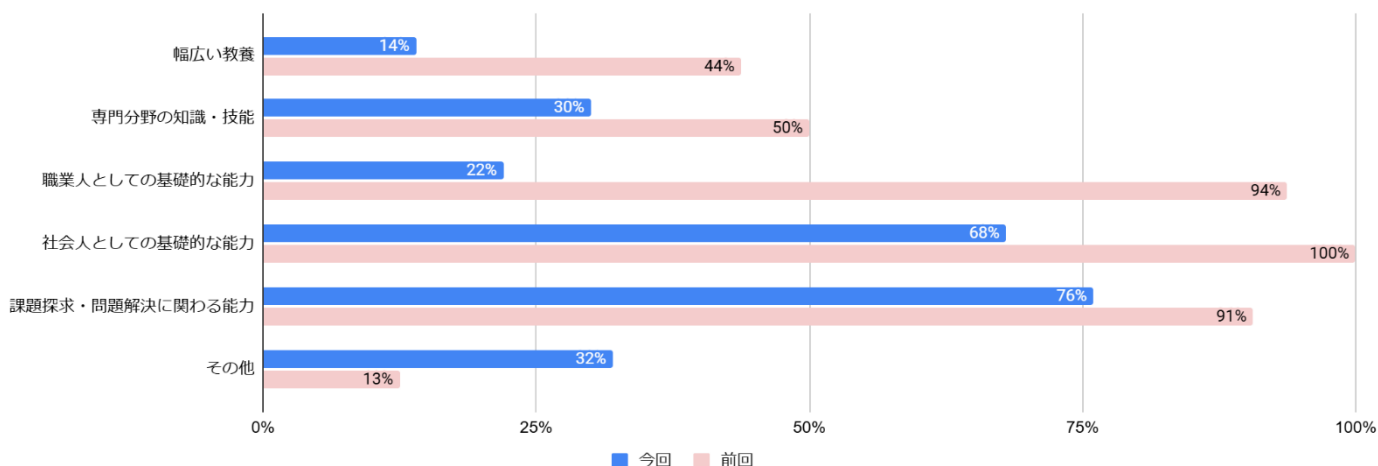
（回答数 89）



今回のアンケート回答社数は 37 社で、前回の 32 社より増加しているが、この設問に対する選択した回答数は前回の 128→89 と減少しています。企業側の重視する点がここ数年で変化している可能性があります。前回最も回答数が多かったのは「社会人としての基礎的な能力」でした。

今回も 2 番目に多くなっていますが、前回 3 番目に選択された「課題探求・問題解決に関わる能力」が今回は最も多く選択されています。

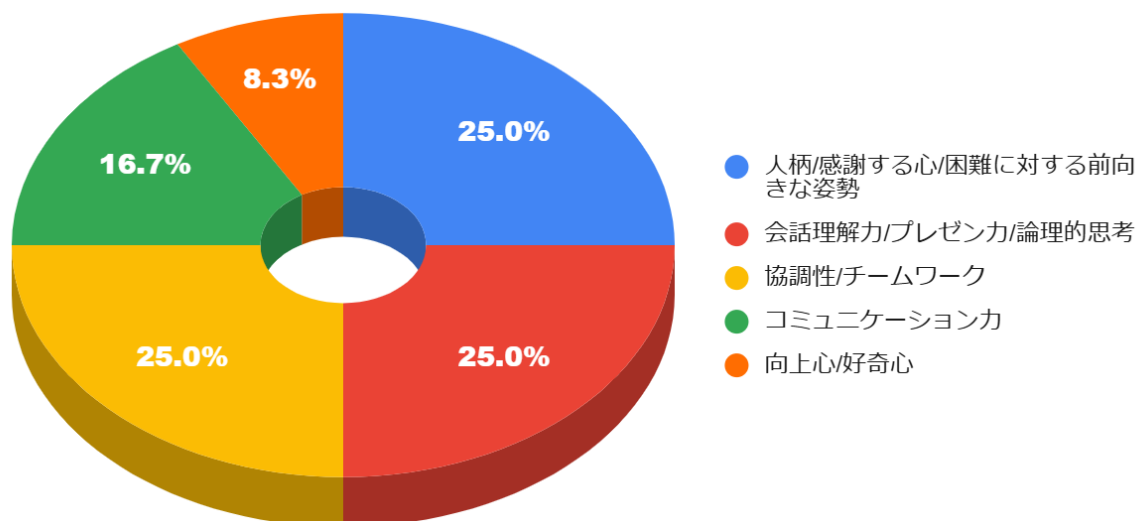
3-1-2、クロス集計 ◆今回×前回 ※回答者数が異なるため割合での比較



前回と比較すると、企業が採用時に重視するポイントを絞り込んでいることがうかがえます。

3-1-3、その他の回答

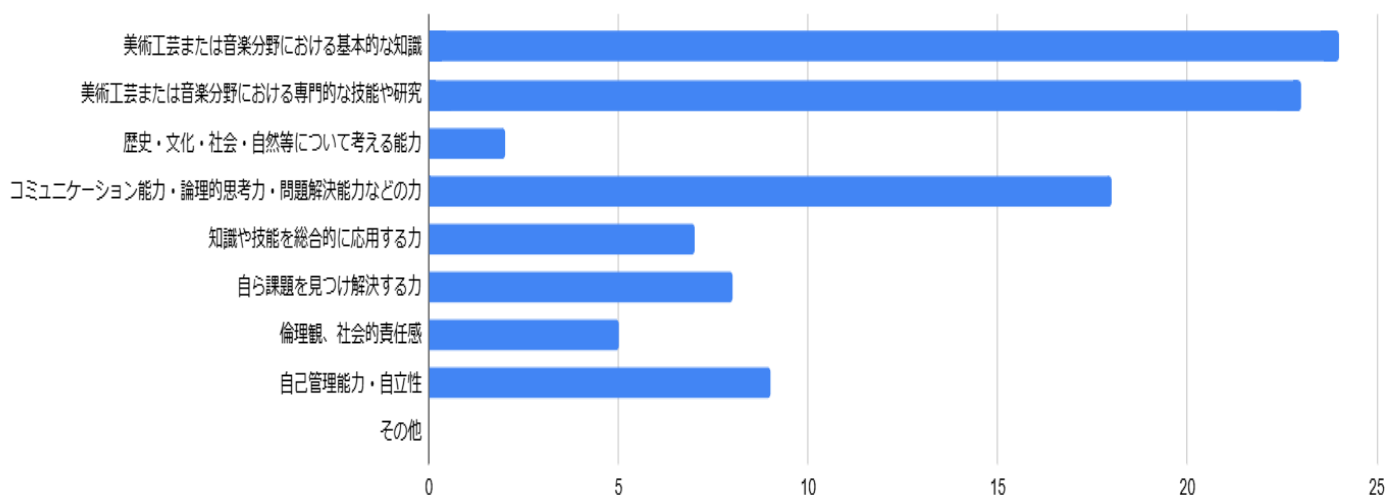
12 社からの回答があった。



「人柄や姿勢」「論理的思考力」「協調性」を重視する割合が高くなっています。

それ以外の回答も「コミュニケーション力」「向上心/好奇心」となっており、技術や知識以外の属人的な要素を重視する傾向にあります。

3-2、沖縄県立芸術大学では、以下の項目のことを身につけた学生に対して学位を授与する方針を掲げています。貴社で就業している本学の卒業者について、身につけている、または発揮できていると思われる項目をご選択ください。（複数回答可）（回答数 96）

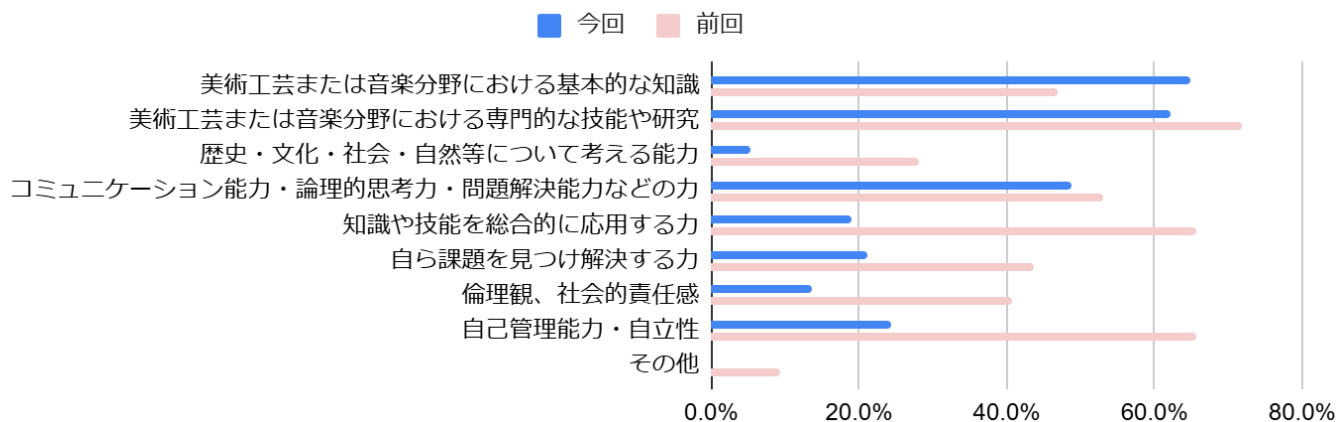


上記 8 項目からの選択制、複数回答可。回答企業に「学術研究・専門技術サービス業」が多いこともあり、「美術工芸または音楽分野における基本的な知識」「美術工芸または音楽分野における専門的な技能や研究」の回答が突出しています。

「コミュニケーション能力・論理的思考力・問題解決能力などの力」の回答も高くなっています。

3-2-1 クロス集計 ◆今回×前回 ※回答者数が異なるため割合での比較

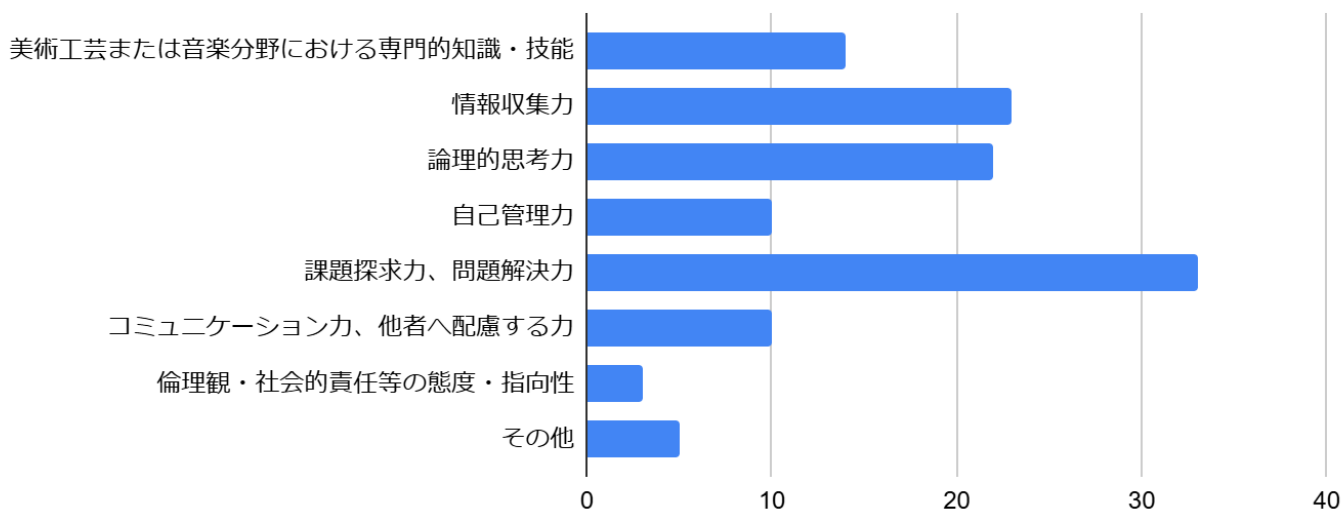
この設問の回答についても、前回 136→96 と回答数が減少しています。



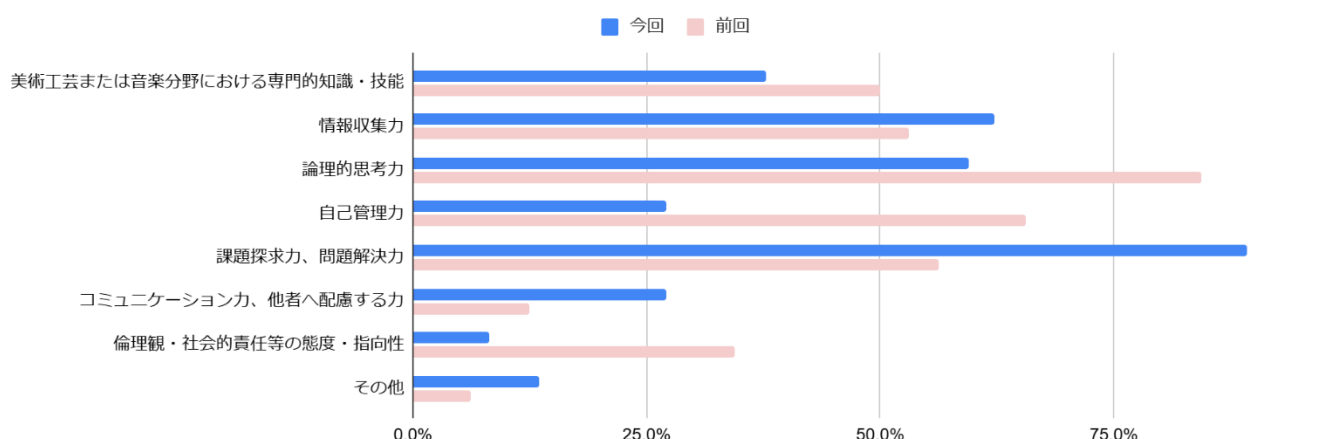
企業からのコメントでは、「様々な分野を横断的に学ぶ経験」の必要性や、コロナ禍で働き方が変化し社会のニーズの変化からより論理的思考や問題解決能力が求められるようになってきているとの声もあり、今後の学生への支援にも活かす必要性も見えてきました。また、県外企業からの回答割合が前回よりも高くなっていることもあり、企業の求める点や基準に違いが生じている可能性も考えられます。

3-3、今後、どのような力を育成する教育が望ましいと思いますか？（複数回答可）

下記 8 項目からの選択制、複数回答可。後述で比較するが、「課題探求力、問題解決力」が突出して高くなっています。前回最も回答割合が高かった「論理的思考力」、「情報収集力」も半数以上の企業が望ましいと回答しています。（回答数 120）



3-3-1、クロス集計 ◆今回×前回 ※回答者数が異なるため割合での比較



前回と比較し、「情報収集力」(53.1%→62.2%↑)以外は、10ポイント以上の差異が生じています。

選択項目	今回	前回
美術工芸または音楽分野における専門的知識・技能	37.8%	50.0%
情報収集力	62.2%	53.1%
論理的思考力	59.5%	84.4%
自己管理能力	27.0%	65.6%
課題探求力、問題解決力	89.2%	56.3%
コミュニケーション力、他者へ配慮する力	27.0%	12.5%
倫理観・社会的責任等の態度・指向性	8.1%	34.4%
その他	13.5%	6.3%

「課題探求力、問題解決力」「論理的思考力」「情報収集力」については、本学でも一層、考慮する必要があると考えます。

3-3-2、「その他」(回答数 5) ※コメント抽出

- ・特に課題の探究力と、自分の研究分野に結びつける能力はとても重要に思えます。
- ・分野を横断した知識や技術が必要
- ・専攻分野以外に web、3D やプログラミングのいずれかの知識
- ・アニメーションか 3D のいずれかが使えるかは今後必須になってくる
- ・Adobe はマストでお願いしたい(美大生で使用できないというのは一般的なイメージとかけ離れている)

回答企業一覧(順不同)

沖縄県内	エマエンタープライズ	西山音楽事務所
プロトソリューション	タム	ブリブザー
モノグラム	大川	ヤマハ株式会社デザイン研究所
ちゅらっぷす	ホテルアンドルームス	カリモク家具
Alex	近代美術	共同企画
トゥムヌイ福祉会	沖縄文化振興会	島津漆彩色工房
沖縄アスコン	UDS 沖縄	メンバーズ
コノ街デザイン	県外企業	中川政七商店
トランス・コスモス	BANKAN わものや	たきコーポレーション
日進商会	フェスタリア	カンディハウス
丸正印刷	クリエイティブハウスポケット	星野リゾート
シーエーアドバンス	SCOPE	フォーティーファイブ・アール
あしびカンパニー	電通テック	L&C デザイン